

IVR センターにおける車椅子入室方法の検討

キーワード 車椅子入室 入室方法 IVR

中央放射線部 ○辻本裕子 尾方希帆 榎谷陽子 植田景子

I. はじめに

令和元年に実施した IVR センタースタッフによる車椅子入室の患者体験と質問紙調査により、ADL によっては患者にとって安全で安楽な入室方法であることが示唆された。この結果からまずは IVR センターへの入室が多い 2 病棟への車椅子入室の導入を施行することとなった。

II. 目的

車椅子入室導入後の評価を行い、患者にとってより安全で安楽な入室方法を検討する。

III. 方法

1. 調査期間：令和 3 年 1 月 25 日～同年 2 月 5 日
2. 調査対象：IVR センター、C 棟 6 階、B 棟 7 階に所属する全看護師 116 名
3. 調査方法：Microsoft Forms を用いて車椅子入室に関する選択肢と自由記述で構成した無記名の web アンケートを独自に作成した。
4. アンケート内容：
問 1. 所属部署を教えてください
問 2. 看護師経験年数を教えてください
問 3. IVR センターでの車椅子入室を一度でも経験したことはありますか
問 4. 車椅子入室は患者にとって安全であると思いますか
問 5. 上記のように評価した理由について

具体的に教えてください

問 6. 車椅子入室は患者にとって安楽であると思いますか

問 7. 上記のように評価した理由について具体的に教えてください

問 8. 車椅子入室で困ったことはありましたか

問 9. 上記で「はい」と答えた方へ具体的にどのようなことが困ったのか教えてください

問 10. 車椅子入室に関する意見・質問等

IV. 倫理的配慮

実践報告をまとめる過程で、看護師や患者個人が特定されないよう匿名性を保つように配慮した。参加しないことによる不利益はないことを理解した上で、アンケートの回答をもって同意とした。この調査は所属長の許可を得て実施した。

V. 結果

アンケート回答率は 41.3%であった。

1. 所属部署・看護師経験年数（問 1、問 2）
IVR センター 19 名、B 棟 7 階と C 棟 6 階を合わせた対象病棟 29 名の計 48 名からの回答を得た。看護師経験年数の内訳を図 1 に示す。

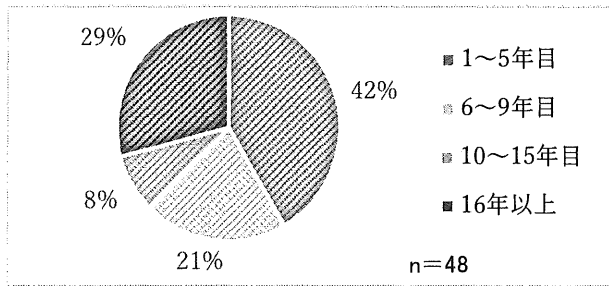


図1 看護師経験年数

2. IVRセンターへの車椅子入室の経験の有無 (問3)

調査対象が一度でもIVRセンターへ車椅子での入室方法を体験した事があるかについての結果を図2に示す。

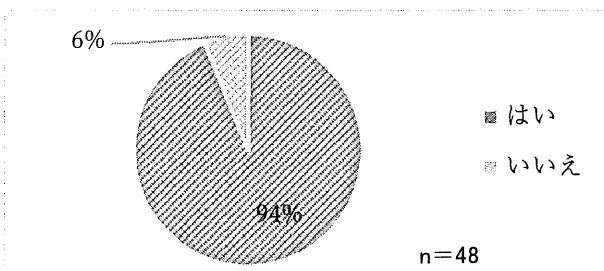


図2 車椅子入室の経験の有無

3. 車椅子入室は患者にとって安全と思うか (問4、問5)

①問4「車椅子入室は患者にとって安全と思うか」についての結果をIVRセンター、

対象病棟に分けて示す(図3)

②問5「上記のように回答した理由」について、IVRセンターからは「足台昇降がおぼつかない患者が車椅子入室をしてきたために危険であった。」との意見が見られた。対象病棟からは「スムーズに入室できる。」「ADLがきちんとアセスメントされている状態であれば安全と思える。」との意見が見られた。

4. 車椅子入室は患者にとって安楽と思うか (問6、問7)

①問6「車椅子入室は患者にとって安楽と思うか」についての結果をIVRセンター、対象病棟に分けて示す(図4)。

②問7「上記のように回答した理由」について、IVRセンターからは「車椅子の方が緊張が和らぎ、より安楽と感じる。」「周りが見えて不安感が減ると思う。」との意見が見られた。対象病棟からはIVRセンターと同じ意見も見られたが、「どちらも大差ないと思う。」「ベッドの方が安楽。」という意見も見られた。

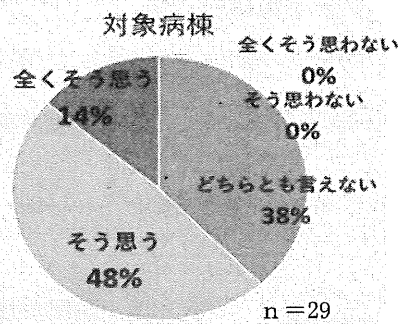
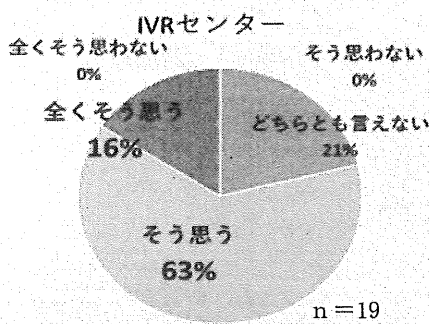


図3 車椅子入室は患者にとって安全と思うか

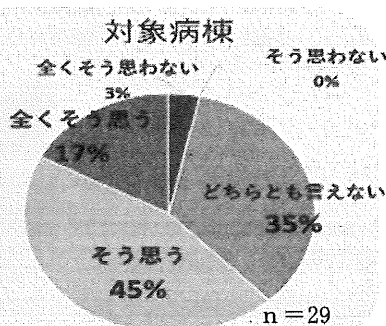
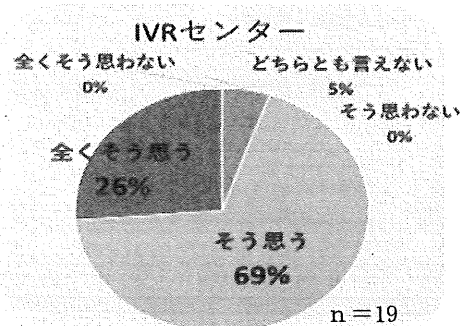


図4 車椅子入室は患者にとって安楽と思うか

5. 車椅子入室で困ったことはあったか (問 8、問 9)

①問 8「車椅子入室で困ったことがあったか」についての結果を IVR センター、対象病棟に分けて示す。(図 5)

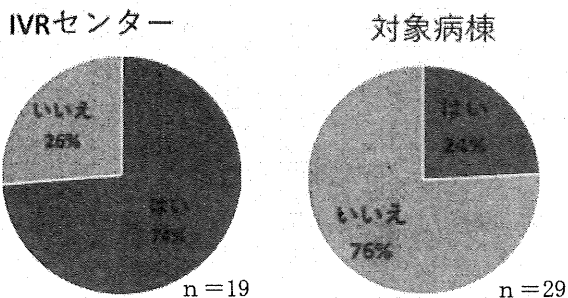


図 5 車椅子入室で困ったことはあったか

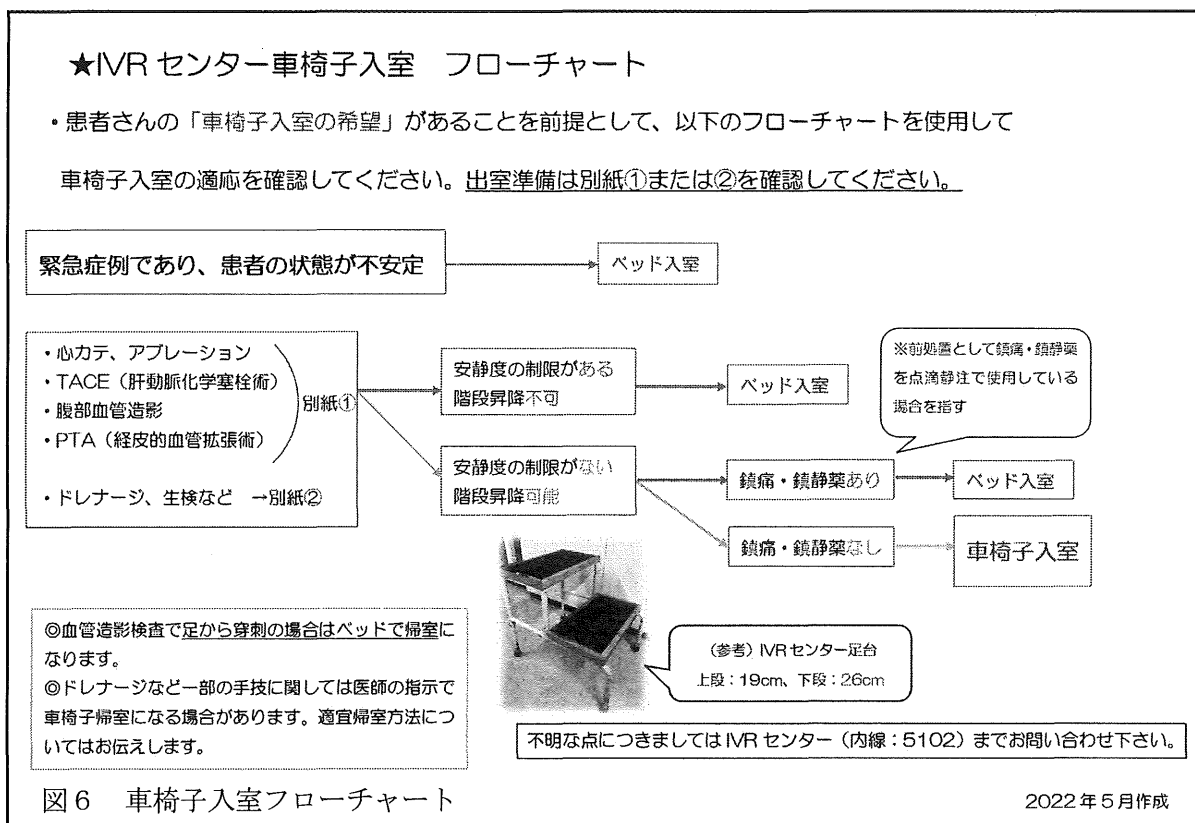
②問 9「上記のように回答した理由」について、IVR センターからは「車椅子で来たものの足台昇降ができなかった。」「検査の準備が不足していた。」という意見が多く見られた。対象病棟からは「帰室時のベッドを下ろす人手が足りなかった。」という意見が見られた。

6. 車椅子入室に関する意見・質問等 (問 10)
車椅子入室に関する意見や質問等を自由に

記述してもらった結果、「入室時の人手が少なくて済む。」「ベッドを後で下ろさないといけないので手間。」「病棟との連携が必要。」「患者と目線が合わせやすくなった。」との意見が挙げられた。

VI. 考察

IVR センター、対象病棟ともに 60%以上が「車椅子入室は患者にとって安全・安楽である」と考えている事が分かった。しかし、「車椅子入室で困ったことがあったか」の項目では IVR センターと対象病棟では相反する結果となっている。自由記載では約 8 割の IVR センタースタッフから「足台昇降が出来なかった」という意見が見られ、その理由としては病棟側が車椅子入室の際に必要な検査台への足台昇降のイメージが難しいことやスタッフ個人のアセスメントに差が生じていることが考えられた。そこで、車椅子入室が可能な患者であるかを共通してアセスメントでき、入室準備を確実にできるように「車椅子入室フローチャート」(図 6)、「血管造影検査出



室準備表」(図7)、「非血管系検査入室準備表」(図8)を作成し全病棟へ配布することでより安全に入室できると期待される。

VII. 結論

- ① 今回の活動で IVR センターでの患者体験や質問紙調査から示唆されていたように車椅子入室は ADL によっては安全で安楽な入室方法であると病棟看護師からも評価されていることが分かった。
- ② 「足台昇降のイメージの困難さ」や「個人のアセスメントの差」という課題も見えてきた。今後フローチャートや入室準備表が各病棟で活用されることで車椅子入室が可能であるか適切にアセスメント

され、安全に入室を行う事ができると期待される。

- ③ 今回の調査は患者の安楽に関しては、看護師の視点から評価したものである。今後は、実際の患者の意見を聞き、より良い入室方法を検討していくことが課題である。

VIII. 参考文献

- 1) 篠原真衣ほか：手術時の歩行入室における患者の心の動き，手術医学，29(4)，2008
- 2) 石川愛ほか：手術室への歩行入室に対する患者の意見調査，手術医学，28(2)，2007

<p>① 血管造影検査入室準備表</p> <p>☆準備</p> <p><input type="checkbox"/> 入室時バイタルサイン測定</p> <p><input type="checkbox"/> 末梢点滴の挿入</p> <p><input type="checkbox"/> 前処置の実施（指示がある場合）</p> <p><input type="checkbox"/> 膀胱留置カテーテル（病棟指示がある場合は指示に従う） ※患者が挿入を拒否している場合は、IVR センターにてコンビーン装着も可能。 挿入困難時は膀胱留置カテーテルを持参。</p> <p>☆持ち物</p> <p><input type="checkbox"/> 同意書（手技の同意書と造影同意書各1枚・心カテは手技の同意書1枚） ※医師のサイン付きの手技の説明文がある場合はそちらも全文持参する。</p> <p><input type="checkbox"/> 持参薬（指示がある場合のみ）</p> <p>☆服装</p> <p><input type="checkbox"/> 前開きのセパレートタイプもしくは着物タイプ（下着はパンツのみ着用可） ※ベッドで入室する場合は後ろに着用。 ※羞恥心や寒さへ配慮をお願いします。</p> <p>☆ルート類</p> <p><input type="checkbox"/> 20 滴（60 滴）シュアプラグ付き輸液セット + 110 cm 延長チューブ（+ 逆流防止弁） + 20 cm 延長チューブ ※心カテ時は 60 滴で作成。 ※アブローチ部位が手の場合や血圧測定禁止部位がある場合は逆流防止弁を使用。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入室時は IVR センター入口のインターホンを押して病棟名をお知らせください。担当スタッフが伺いますので前室でお待ちください。 ・車椅子入室時、病室がベッドの場合はベッドを下ろしてください。ベッドは IVR センター前の所定の場所に置いてください。ベッドネームがない場合は前室のプレートを使用し名前の掲示をお願いします。 ・ベッドには着物タイプの寝衣とバスタオルを写真のように置いてください。 ・充電が必要なベッドの場合は IVR センタースタッフにお声かけください。 <p style="text-align: center;">2022年5月作成</p>	<p>②非血管系（ドレナージ、生検等）入室準備表</p> <p>☆準備</p> <p><input type="checkbox"/> 入室時バイタルサイン測定</p> <p>☆持ち物</p> <p><input type="checkbox"/> 同意書（手技の同意書と造影剤の同意書各1枚） ※医師のサイン付きの手技の説明文がある場合はそちらも全文持参する。</p> <p><input type="checkbox"/> 持参薬（指示がある場合のみ）</p> <p>☆服装</p> <p><input type="checkbox"/> 前開きのセパレートタイプもしくは着物タイプ（下着はパンツのみ着用可） ※羞恥心や寒さなどへ配慮をお願いします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入室時は IVR センター入口のインターホンを押して病棟名をお知らせください。担当スタッフが伺いますので前室でお待ちください。 ・車椅子入室時、病室がベッドの場合はベッドを下ろしてください。ベッドは IVR センター前の所定の場所に置いてください。ベッドネームがない場合は前室のプレートを使用し名前の掲示をお願いします。 ・充電が必要なベッドの場合は IVR センタースタッフにお声かけください。 <p style="text-align: center;">2022年5月作成</p>
---	--

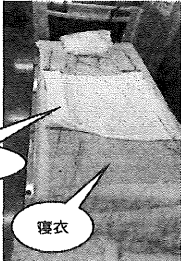


図7 血管造影検査入室準備表

図8 非血管系検査入室準備表